

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701021		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム陽なたぼっこ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽4463		
自己評価作成日	令和6年2月25日	評価結果市町村受理日	令和6年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南阿蘇の豊かな自然に囲まれ、各居室やリビングからは桜や紅葉、季節の花々を楽しむ事ができ、野鳥の他、アナグマや鹿等の野生動物を目にする機会もあり入居者の皆様を楽しませてくれます。職員の年齢層も幅広くお互いに意見を出し合いながら理念のひとつである「家庭的でぬくもりのある暮らし」を提供できるよう日々の様々な事に取り組んでいます。職員については、有資格者を多く配置しており介護福祉士は職員の9割近くが取得しています。また、介護支援専門員、看護師等有資格者も配置しており専門性を生かしたより良いケアが出来る環境を整えています。また今年度は、感染症対策を行いながら外出行事や面会等を実施しています。日々の生活の中で、入居者が口にされた一言や表情を大切に行事の計画、嗜好品の提供、個別ドライブなどの交流を通して、少しでも皆様が、穏やかな気持ちで生活できるよう支援しています。ご家族様へは広報誌や2ヶ月に1回の手紙、年賀状や電話を通して日々の状況をお伝えし安心して頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年も阿蘇の名物「高菜漬け」作りを前に、塩もみ用のもろふた等が準備されたホーム内は賑やかで、出番を待つ入居者やしっかり先人の知恵を受け継いでおこなう職員の姿など、グループホームらしい光景を見る事が出来た。前管理者が大切に職員へ伝えてきた「入居者への温かい手を差し伸べる」の精神はしっかりと受け継がれ、決してゆとりの職員配置ではないものの、チームワークをもって入居者や家族にも安心を与える福祉サービスの提供に努めている。法人の他の施設を輪番で体験する取組は職員から提案されたものであり、法人の機能をホーム運営に活かしたいとする気持ちが伝わってくる。コロナ禍で外出支援が難しい期間が続いていたが、5類移行後は家族の協力を得ながら定期的な帰省を楽しみにされている入居者も数名おられる。また高校生の実習を数年ぶりに受け入れる等徐々に地域活動が再開されていることで入居者の楽しみも広がっている。自宅で過ごす光景と変わらないリラックスした表情が居心地の良さを物語っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に当事業所の5つの暮らし”の理念を作成継続している。ケア会議時や勉強会の場で、理念の唱和を(サブタイトルまで)行っている。また、名札の裏に携帯し、いつでも確認できるようにしており、新しい職員でも理念が共有できるようにしている。その他では、玄関、リビング等に掲示している。	地域密着型事業所として入居者が地域の一人として生活を育むための“5つの暮らし”方を理念とし、職員は何かあれば名札の中に携帯した理念に立ち返ることとしている。離職の少ない職場環境は家庭的で入居者との馴染みの関係性が定着しており、四季折々の自然も入居者の生活の幅を広げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年もコロナ感染拡大防止の為、外部からの訪問は最小限にとどめているが、5類に移行してからは入居者やご家族の要望があれば自宅への外出の機会を設け、家族や親戚、地域の方との交流を図って頂いている。面会も法人の基準に順じて対面での面会も実施しており、各入居者の状況に応じて時間を延長、食事を一緒に食べて頂いている。また、個別の病院受診時に慣れ親しんだ学校の前を通ったり、好きな物を食べて頂いたり住み慣れた地域にお連れする機会を出来る限り設けている。他、高校生の実習の受け入れや買い物支援も行い、皆様大変喜ばれていた。今後も感染対策を行いながら地域との繋がりの機会を増やしていきたいと考えている。	コロナ感染症の5類移行後は徐々に地域活動を再開し、数年ぶりに高校の実習生を受け入れた際には、入居者が満面の笑みで迎えられている。地域での買い物支援やドライブ時には入居者に馴染みの風景を楽しんでもらい、在宅時から培ってきた保存食作りや大掃除、餅つきなどには全員で関わり、自宅や地域での生活経験が生かせるプログラムを数多く準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は4年ぶりに高校生の実習の受け入れを行い、認知症に対する知識や支援の方法を伝えることができた。また、運営推進会議の際にグループホームの特徴や様子等を説明し理解して頂く機会を設けている。他、昨年同様、事業所だよりにて地域の方々にも事業所の様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	役場、ご家族、民生委員、地域包括支援センター の方々等に参加して頂き、2ヶ月に1回、運営推進 会議を実施している。会議では運営状況やホーム の実情、感染症の状況や対策についてなどを報告 し意見交換の場を設けている。今後も運営推進 会議を活かしてサービス向上に繋げたいと考えて いる。	本年度より対面での直接開催が出来てお り、法人の地域密着型特養との合同会議 とし、互いの情報を共有している。避難訓 練とタイアップした会議では事前にホーム 内を見学してもらうことで室内の位置関係 や入居者の日常の様子から会議内容がよ り身近に感じられるなど、会議自体を工夫 している。	会議が行政や地域代表者、家族 等の協力を得て多方向からの意 見をホーム運営に反映され、円滑 に機能している。今後は理学療法 士や栄養士による健康に関する 講和などを取り入れ、法人の機能 を活かした取組にも期待したい。 また、身体拘束については研修会 の内容やホームの現状を報告さ れることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組 んでいる	運営推進会議や訪問調査等を活用し、介護実践 の取り組みや、法人本部を通して人員不足や現状 についての報告を行っている。法人本部職員が役 場へ出向く機会も多く、協力関係は築けていると思 われる。	法人は行政や企業などと共同で人材不足 に数年前から取り組んでおり、「阿蘇郡、 市で働いてもらう」のローガンとともに人 材不足、育成に力を注いでいる。ホームも 必ずしも人員に余裕はないものの、職員の チームワークで質の高いケアが出来てい る。現在地域密着型事業所の連絡協議会 の世話人として役を担っており、年間の研 修会や情報交換を運営に反映させてい る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準に おける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘 束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、3ヶ月に1回の勉 強会を実施している。身体拘束の事例など用いて 勉強会を実施し職員に周知している。また、安全確 保の観点から、センサーマットを使用している方が おられるが、ご家族には説明を行い了承を得た上 で使用している。	身体拘束委員会を設置し、勉強会では事 例をもとに話し合い、職員自身が自己を振 り返る機会としている。センサーマットを 使用する場合には、プランに入れて家族の 同意を得ており、できるだけ外す方向で検 討し、必要がない状態を見極め、使い続け る事が無いようにしている。言葉使いは入 居者に馴染みのある方言を使っているが、 馴れ合いにならないように十分配慮して いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施しており虐待防止に努めている。職員が心身共に健全な状態であることも重要であると考えており、職員間のコミュニケーションを大切にしている。また、休憩時間の確保や業務負担への配慮も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し、制度や権利擁護に関する理解を深めるよう努めている。法人とも連携をとり、速やかに対応できるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入居前、又は入居時に契約書及び重要事項説明書等にて説明し理解、納得された上で締結している。料金改定等の際には、書面にて通知している。また、問い合わせに関しては、法人本部または当事業所にて対応しており、十分な理解、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては担当制を実施しており、意見や要望の聞き取りをし対応している。ご家族等に関しては、面会時や電話、手紙での相互連絡の際に意見、要望の聞き取りを行っている。収集した意見等は運営に反映できるようケア会議や広報を活用して外部の発信に努めている。	入居者の要望は担当職員等による日々のコミュニケーションから収集しており、「家に帰りたい」との要望には家族の協力を得て定期的に帰省される方がおられる。家族の意見や要望は面会時や担当者会議などで聞き取り、ホームで対応できることは要望に応えるようにしている。これまでに苦情などは受けていないが、入居時には苦情担当の責任者や外部の公的窓口などを書面で渡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は日常のコミュニケーションの場やケア会議にて聞く機会を設けている。意見や提案があった際は所長、主任で検討し運営に反映しているが、判断が難しい場合は所長、主任が代表者へ直接相談、報告し解決している。	職員が普段から意見や要望を出しやすい職場環境となっている。ケア会議では職員意見を検討し、個々のセンサーマットの評価や、業務改善などについて話し合い、物品購入については法人に声をあげている。使用中の立ち上がりに自動ロックがかかる特殊な車いすが入居者のリスクを考慮して購入に至っている。また担当者が車いすを定期的に点検しており、空気圧や動きなどを確認している。	職員の提案により、「法人の他の施設を輪番で体験してみようか」との意見を法人に上げ、デイサービスや特養施設といった他の部署に月に1名程が学ぶ機会を作っている。今後も職員の意見や提案が反映されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、資格手当、休暇を含めた業務改善など法人及び代表者も積極的に支援を行っている。また、労働時間や業務に制限のある職員もいるが、柔軟な勤務を作成することで職員が働きやすい環境になるよう努めている。今後もより良い勤務形態への変更、職員が働きやすい職場環境づくりに努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、職員1名が実務者研修を受講中である。勉強会は定期的実施している。施設外への研修への参加も率先して行えるよう、案内を掲示し勤務時間等に配慮している。他、今年度の新しい取り組みとして、法人内の他事業所(デイサービス)への研修を実施中である。研修を通して個々のスキルアップができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は熊本県地域密着型サービス連絡会、阿蘇ブロックの世話人であったため、研修会や会議を通して同業者との交流や情報の共有が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者から情報収集を行い、不安なく安心して入居出来るよう配慮している。認知症の進行により、意思疎通が困難な方に対しては、表情や仕草の変化にも気を配り、信頼関係を構築できるよう努めている。また、情報については職員間で共有し、より良い支援に繋げられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とコミュニケーションを図りながら、事業所の理念や方針等を理解して頂けるよう働きかけを行い、気持ちに寄り添い要望についても出来る限りサービスに反映できるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族の要望に応えられるよう、広い視点でサービス内容を提案し、担当職員やケアマネージャーの意見を取り入れながら必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりが取り組める事を職員全員が把握し、日常生活の中で職員と一緒に家事活動(食器洗い・掃き掃除・洗濯物たたみ)などに取り組むことによって役割を認識したり、互いに協力することで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報及び担当職員より近況の報告の手紙を送付し、グループホームでの活動や生活の様子をご家族にも把握して頂けるよう配慮している。また、必要な物品や対応困難なケースについては、都度連絡を行い相談しながら対応することで、より良いサービスが提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域や自宅周辺にドライブへお連れしている。陽ノ丘荘を利用されている姉妹の方は感染対策を行いながら可能な限り会いにお連れしており関係が途切れないようにしている。	家族の面会や法人内に入所する姉妹と行き来しながら、関係性が途切れないようにしている。大掃除には入居者も一年使った共有スペースや庭を全員で掃除し、こだわりの化粧品を使う方や、家族から送られる歯ブラシを待たれる方など入居者にとって長い間使い慣れたものを継続して支援している。春先には高菜の収穫(高菜折り)も一大行事となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔馴染みである入居者同士は、日常的に家事活動や作業を一緒に取り組む中で、体験を通して更なる関係構築に努めている。コミュニケーションが取りづらい方においても職員が間に入り、レクリエーションや体操、行事を行うことで関わり合いを持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移動された入居者の方には折に触れて様子伺いを行っている。また、長期入院の方のご家族の問い合わせには、病院と連絡をとり丁寧に対応している。契約終了後もご家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの意向を把握し、職員間で情報の共有を行い可能な限り希望に沿うよう支援している。意思の伝達が困難な方に対しては、ご家族と相談しながら暮らしの意向に沿うよう務めている。	当初より職員をユニットに固定せず、2ユニット全入居者を把握しており、何時でも誰でもが対応できるようにしている。職員は普段の会話から入居者の思いを引き出し、ケア会議などで発言し、支援に反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方、生活歴を本人、ご家族、ケアマネジャーから情報収集し、入居後も日常生活の関わりの中でその人らしい暮らし方の把握に努め、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケース記録、個人票、医療申し送り、申し送りノートを活用し、日々の心身状態の把握に努めている。また、身の回り品や環境整備についても情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の参加は少ないが事前にケア会議への参加有無及び意見、要望を送付している。日常生活を通し担当職員と計画作成担当者が情報や意見を交換しアセスメントを行い本人とご家族のニーズを反映した介護計画を作成している。作成した介護計画書はケア会議にて職員間で話し合い現状に即した介護計画の作成に努めている。	在宅時に利用していた居宅ケアマネジャーからの情報や入居後の生活の様子からアセスメントし、まずはホームや他者に馴染んでもらう内容をあげている。排泄用品の選択には自宅で使い慣れたものが本人に合っていることから、家族に届けてもらうなど入居者にとって最良の方法で対応している。担当者会議では職員がさらに入居者の様子を伝えながら、家族から要望を引き出し、暖かくなったら入居者との外出を楽しみにしているとの声が聞かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の状況や心身状況をケース記録にまとめ、パソコン内のデータ(一般、医療)を作成し情報共有が出来るようにしている。また、これらの情報は介護計画作成時のアセスメントやモニタリングにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスが5類へ移行してからは、外出する機会も増え、一時帰宅される方など個別のニーズに対応している。面会においては、感染状況に応じて、窓越し、対面の面会を実施。人数や時間制限はあるが工夫しながら対応している。今後も、ご家族、医療と連携を図りながら様々なサービスを提供できるよう取り組んでいく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度から引き続き感染予防対策を行っているが、コロナウイルスが5類への移行後は訪問理容の再開など少しずつ地域の方と関わる機会が増えてきている。今後も出来る限り地域資源と協働し楽しみある生活が提供できるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関等に説明を行い同意を得た上で主治医の変更を実施している。また、状況に応じて本人や家族が希望する医療を受け入れられるように支援している。現在は施設での送迎だが症状説明等にはご家族にも病院に付き添って頂いている。	本人・家族の意向を確認し、全員が関連法人の医療機関をかかりつけ医とし月2回の訪問診療を支援している。受診結果は電話か家族の訪問時に伝えている。専門医については職員が受診支援を行い、状況に応じて家族の同行を依頼している。歯科は訪問診療で希望者や不具合が生じた場合治療や必要な口腔ケアが行われている。職員は食後の歯磨きを歯ブラシの他、歯間や舌ブラシを使用しながら支援しており、中には歯ブラシを送られる家族もおられるようである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から介護職員と看護職員の関係を密にして情報共有することで早い段階での状態変化や異常に気づきいち早く医療と連携していけるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、ご家族等と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報の提供やケアについて申し送りをしている。また、スムーズに退院できるよう、本人、ご家族、病院関係者で退院に向けての話し合いをしながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には段階ごとに、ご家族やかかりつけ医、ケア関係者の意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。職員全体でも話し合い、ご家族や医療関係者と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	重度化・終末期支援については家族の希望があれば取り組むこととしており、意向は事前指定書で確認している。家族の思いは変化するものであり、指定書は年1回確認している。家族の意向は慣れ親しんだホームでの最終を希望される方が多くなっているようである。看取りに関する研修や会議を実施しており、各部署が看取りをした時の振り返りを一緒に行っている。	事前指定書は家族だけではなく、本人の意向も大切にしており、今後も難しい部分ではあるが本人・家族の思いを聞きながらでき得る支援に努めていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の身体状態の急変や事故発生時にもあわてずに確実かつ適切な行動がとれるように全ての職員が応急手当や定期的な訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月と9月に夜間を想定し法人全体で防災、避難訓練を実施している。4月の訓練では2階キッチンを火元と設定し自力で階段を降りれる方は降りて頂き、車椅子の入居者や自力で降りれない方は、消防士よりシーツを使用した階段の降り方や、消防が来る迄の安全な避難場所の指導を受ける。他、災害時の非常食等の準備、保管は法人で行っている。	今年度は4月に消防立ち合いの訓練を、9月に夜間帯を想定し、2階キッチンを火元に設定した訓練を実施している。他部署の夜勤者、当直者と連携し、入居者18名の避難が行われ、入居者の命をどのようにして守っているか、訓練の様子を地域の方に見てもらおう訓練となっている。災害時の備蓄はホームと本体施設でリストに沿って確保されている。	BCPについては法人が中心になって進めており、完成後はホーム内での共有が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	陽なたぼっこの5つの理念に基づき、入居者個人を尊重し尊厳を守る事を心掛け、個人のプライバシーや誇りや自尊心を傷つけないように心がけている。また、職員間でも言葉遣い等、お互いが助言できるようにしており、勉強会や会議でも話し合っている。	ホームの基本理念を心にとめ、入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。言葉使いや支援方法など気になる事は助言できるような職員の関係性を大切にしている。身だしなみやおしゃれの支援は家族の協力も得ながら衣替えや好みの衣類を着用できるようにしており、訪問カットも再開され喜ばれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が希望や思いを気兼ねなく発言できるよう働きかけている。また、意思決定しやすいよう簡潔な言葉選びにも配慮している。聞き取りが困難な入居者に関しては日々の生活の中での言動や表情等から意思を汲み取れるようコミュニケーションを図るようにしている。ご家族にも家庭での生活の様子を伺う等、情報共有にも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等の日課はあるが、本人の体調や生活のリズム等、一人ひとりの様子を見ながら活動や行事等への参加を勧めている。居室でのテレビ視聴、新聞読み、脳トレ、リビングでのカラオケ等個人の要望に沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容を行っている。コロナ感染症が若干緩和された事で訪問整容も再開し皆様大変喜ばれている。また、季節の変わり目には衣替えを行いご家族協力の下、衣類等の購入も行き季節や場面にあった服装で生活できるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人管理栄養士の協力の下、健康管理に留意し一人ひとりに合わせた食事量、食事形態にて提供し、アレルギーのある方に関しては代替食で対応している。また、高菜折り、高菜漬け、クリスマスケーキ作り等、季節を感じる調理活動も計画している。行事食では重箱や季節にあった器に盛り付けたりと味と見た目でも食事を楽しむ事が出来るようにしている。	法人厨房で調理された食事を嚙下力に依りて提供し、アレルギーや苦手な食材には代替えで対応している。お重に詰めたおせち料理やひな祭りちらしをはじめ、盛り付けにもこだわった行事食や夏まつりでの屋台は大変喜ばれている。入居者もおにぎり作りやクリスマスケーキのトッピング、餅つき、高菜漬けの作業など出番が用意されている。職員は弁当などを持参しており、検食がホームに輪番で回った際、気づきなどを記入している。	クッキングの日として豚汁会やホットケーキ、焼きそば作りなどを楽しんでいる。今後も入居者の希望を聞きながらクッキングを一緒に楽しまれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士の協力を得て入居者一人ひとりに合った食事形態で提供できている。水分、食事摂取量が少ない方に関しては、本人やご家族に嗜好品を尋ねて購入し提供している。アレルギーや禁忌食品等の把握は職員が確認しやすい所に掲示して全職員が情報を共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週水曜日に訪問歯科診療を受け、治療や口腔ケアを定期的実施している。口腔ケアは1日3回毎食後に行っており、個々の状態に合わせて歯ブラシ、歯間ブラシ、舌ブラシを使用している。自分で出来る方も磨き残しのないよう声掛けや仕上げ磨きの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄能力に応じて対応している。排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握し必要な支援を行っている。日中は可能な限りトイレを使用している。自立にむけた排泄についてはケア会議時などでも話し合いをしている。排泄パターンの情報の共有やパッドや紙パンツ類を再検討するなど、出来る限りトイレで排泄できるよう努めている。	把握した排泄パターンを共有し、個々に応じた排泄支援に努めている。自立に向けた排泄支援についてはケア会議などで検討している。日中は可能な限りトイレでの排泄を支援しており、現在、リハビリパンツのみやパットを併用される方が殆どであるが、布パンツで過ごす方も3名おられる。夜間のみ使用される方のポータブルトイレについては、個々に応じた配置場所を検討し、安眠にも配慮しながら可能な限りその都度廃棄し、清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事と水分量を確保する他、体操、レクリエーション、歩行運動を日課に取り入れており、運動不足を解消することで便秘の予防に努めている。また、排泄チェック表を活用し医師や看護師の指示の下、腹部マッサージや各種下剤を用い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を整えている。基本的には午前中に入浴を実施しているが、入居者の希望があれば午後からの入浴に変更するなど個々のタイミングに合わせて入浴を実施している。また、個々の身体の状態に応じて一般浴と機械浴を設置し対応している。	週2～3回、午前を中心にゆっくりとした入浴を同性介助への希望にも対応しながら支援している。希望があれば午後からの入浴にも柔軟に応じている。2階は一般浴の為身体状況に応じて1階の機械浴で支援されている。職員が差し入れた菖蒲や柚子を入れた季節湯は毎年実施しており、全員が楽しめるよう2日間実施している。	脱衣所や浴室は整頓され、臭気など無いよう掃除されている。今後は洗剤については安全面に配慮した保管場所の検討に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して休めるよう、日中、各個人にあわせ、体操、歩行訓練、階段昇降、脳トレや塗り絵等に取り組んで頂けるよう心掛けている。また、個人の意思を尊重し、日々の体調に合わせて無理のない範囲で行い、状況に応じて休息時間を設けている。座位時、臥床時間問わず足枕、クッション、座布団等使用し一人ひとりが安心して安楽な姿勢で過ごし休息や安眠が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを活用し、薬の内容や経過を見やすくし、変更があった際に医療申し送りや、職員間で話す事で薬の内容等把握できる様に努めている。服薬については、内服の準備から服薬後まで必ず職員2名にて確認し安全に服薬できるようにしている。又、各個人の薬カレンダー、与薬確認表のチェックも行ない誤薬のないよう努めている。日常の中で身体、精神状況の観察に心掛け何かある際には看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や身体能力に合わせ、家事活動(食器洗い、お盆拭き、縫物、畳物、掃き掃除)等、役割をもち充実した生活を送れるよう寄り添った活動支援に努めている。家事活動を通し、一人ひとりが職員と一緒に出来る事を行い、生活に楽しみをもち過ごされている。嗜好品については日常生活の会話の中で把握する事もあれば、食べたい物、飲みたい物等の要望を聞き、出来る限り希望に答えられるよう支援に努めている。また、病院受診時や出張売店等で一人ひとりが自分の好きな物を購入し気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症が第5類に移行し、状況に応じて個別に外出支援を計画し実施している。要望があれば自宅へ戻られる時間を設け、家族と一緒に過ごして頂いている。1月下旬から2月上旬に数回にわけ職員付き添いのもとサーカスへお連れし大変喜ばれている。これからも、一人ひとりの希望に沿った外出支援が行えるよう努めていきたい。また、普段の生活の中でも散歩等にお連れし、一人ひとりの意思を尊重できるよう支援している。	昨年度より制限が緩和されたこともあり、庭先での散歩や外気浴の継続に加え、16名の入居者が数回に分けてサーカス観覧に外出できている。「懐かしか〜！」と入居者は連発され、普段言葉数が少ない方も、喜びを伝えられたようである。病院受診は外出の機会でもあり、受診後おやつを食べたり帰ったり、卒業した学校横を通り帰園するなど個別支援の充実に努めている。また、自宅への帰省を希望し定期的に帰る方も数名おられる。これからも一人ひとりの希望に沿った外出や普段の生活の中で敷地内の散歩を楽しみたいとしている。	色々なイベントの中止が続いていたが、今年度は夏祭りで屋台や各階での職員余興など入居者が楽しめるイベントが企画されている。今後も外出が出来ない状況にあってもそれに代わるイベントを企画していきたいとしている。敷地内の菜園には季節の野菜を育てており、阿蘇ならではの高菜折り(収穫)も予定されている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を所持し使いたいとの希望がある入居者には財布に3,000円程持って頂いている。自販機等で買い物される時は付き添い支援している。買い物希望ある入居者には担当が購入したい物を伺い担当が購入している。自分で購入したい希望のある方は病院受診時等に売店や店舗により買い物されている。又、年に2～3回、阿蘇立野病院からの出張売店を楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される入居者には一緒に電話をかけ話して頂いている。手紙や葉書をだしたいという希望はない。一昨年は書中見舞い葉書を担当と一緒に作成しご家族に喜ばれた。また、新年の年賀状は担当と一緒に写真葉書を送付している。現在、3名の入居者が携帯電話を持たれている為、時々電話の操作を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が入居者にとってリラックスでき心穏やかに過ごせるよう、空間作りや季節の花やカレンダー等を飾り季節感を取り入れ、随時、温度や照明の調節を行い居心地よく過ごせるよう努めている。	玄関先やリビング内などにもプランターに植えた季節の花苗が置かれ、外出をはじめ制限された生活が続く入居者や支援する職員にとっても心和む工夫がなされている。廊下やトイレをはじめ、エアコンは状態を見ながら交換がされ、過ごしやすい温度で調整されている。コロナ5類移行後も換気や掃除、必要な消毒は継続されており、以前のようにリビングで集いテレビを見る機会は減少しており、自室で見たり食事を摂られる方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で伸び伸びと自分らしく過ごせたり、気の合った入居者同士で会話ができるよう、家具や席の配置等、状況に応じて都度入れ替え、入居者が自分の居場所が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族や本人と相談、話し合いながら使い慣れたタンスや愛着のある物を持ち込まれる事で、入居前の環境を保ち精神的に落ち着く環境作りに取り組んでいる。	新しい入居者や家族には居室の環境について参考になるよう感染症の状況をみながら他の方の部屋を案内したり居室の様子を写した写真見てもらいながら説明している。現在、衣替えは担当職員が確認し不足の物などを伝えている。テレビや椅子、冷蔵庫、家族の写真や自身の作品、カレンダーをはじめ、これまでの趣味や好きな物、家族の思いなどが伝わりホッとする空間である。どの部屋からも裏庭の樹木や草花が眺められ、季節の移ろいを居ながらにして味わうことができ更に居心地の良さにつながっている。紅葉の時期には裏庭のもみじを夜間ライトアップされている。	使い慣れた座椅子に座り足を伸ばし、テレビを見たり食事を摂られる方など、自宅に居るように過ごされる入居者の日常を見る事が出来た。今後も本人にとって安心できる部屋、家族にとっても訪れやすい居室環境に取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には個人に応じた表札、浴室やトイレ等、共有部分には表示を使用し入居者が分かりやすい様に工夫している。また、導線上の整理を行い安心して移動、生活が出来るよう心掛けている。		